

AYA支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者 多田羅 竜平 大阪市立総合医療センター 緩和医療科兼小児総合診療科 部長

研究要旨: AYA 支援チームのモデル作成の一環として、自院において多施設の医療者向けの講演会とパネル・ディスカッションを行った。各講演への質疑、ディスカッション、アンケート結果から、継続的な多施設カンファレンスのニーズが高いことがわかった。

A. 研究目的

AYA支援チームのモデル作成の一環として、関西におけるAYA支援チームのネットワーク構築を目的として、自院において多施設の医療者向けの学習会、カンファレンスを行い各施設の医療者のニーズを把握する。

B. 研究方法

2020年6月に「関西・AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク・カンファレンス」を開催し、会場でのディスカッションやアンケートを通して、多施設的なかわり方の方向性を検討する。

（プログラム内容）

プログラム（案）

「高校生への支援」

事例：高校生の妊孕性温存をどのように説明・ケアをするか

事例：教育支援・学校との連携をどうするか
＜ミニレクチャー＞

「若年成人終末期がん患者・家族への支援」

事例：子どもを抱えている30代終末期がん患者・家族への支援、地域連携とACP

「今後の支援ネットワークのあり方について」

＜グループワーク＞

C. 研究結果

コロナ感染拡大の影響でカンファレンスが直前になって中止を余儀なくされた。

D. 考察

前年度の講演会開催時のアンケートから、ほとんどの施設の医療者はAYA世代の患者に関わる機会が乏しく、自身の経験の積み重ねだけではスキル向上に限界のある現状が明らかとなり、多施設で集まって学習したり、事例を検討したりする機会の一つとして、「関西・AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク・カンファレンス」を企画したが開催できなかった。オンラインでの開催も考慮したが、オンラインのセミナーは類似のものがいろいろある中で、やはり実際にフェイス・トゥ・フェイスで集まる機会を作るほうがいいだろうと考え、コロナ感染が落ち着くことを願っていたがかなわなかった。来年度には実現したい。

E. 結論

今年度は、予定していたネットワーク・カンファレンスがコロナ感染拡大の影響で開催できなかった。今後、コロナ感染が収束を得られれば、拠点となるAYA支援チームが中心となって、AYA世代がん患者の支援に関する多施設的な学習会やカンファレンスを継続的に開催することができるように準備しておくことが必要である。

F. 健康危険情報 該当なし

G. 研究発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案 なし

3. その他 なし